

一〇一五年九月二〇日

月光の波紋ひろごる良夜かな
まほろばの大和平野は秋の色
秋灯下ル一ペを友として親し
もとほれば池畔は今し虫淨土
乗り遅れ電車見送る秋思かな

一〇一五年九月一九日

露天湯に肩の沈めば虫時雨
野路ゆけば秋風吾を抱擁す
大玻璃に黄落やまぬロビーかな
戸を繰れば存問のごと秋の風

一〇一五年九月一八日

一筆箋添へて届きしマスカット
佇めば三刀殿の秋蝶来

一〇一五年九月一七日

秋桜指揮棒ふれば唄ひ出す
校了やお疲れさまと虫すだく

一〇一五年九月一六日

草紅葉靴に触れもす杣の道

一〇一五年九月一五日

秋雨や樹海縫ふ道傘要らず
電線に大集合す秋燕
蝙蝠の目は宇宙人めきにけり
渓紅葉打ち重なりて風生る

勉	聖	明日香	よし女	ぱんこ	むべ	あきこ	せいじ	せいじ	ぼんこ
舞殿へ風の誘ふ散紅葉	地獄絵図さながらに蓮枯れにけり	園児らの唄に喝采敬老会	千鶴						

一〇一五年九月一四日

毎日句会みのる選・一〇一五年九月二四日

もとこ	ぼんこ
舞殿へ風の誘ふ散紅葉	地獄絵図さながらに蓮枯れにけり
園児らの唄に喝采敬老会	千鶴